

5/20  
2008  
vol.41 No.925

人と組織の力を高める人材開発情報誌

# 企業と人材



## コンプライアンスの 仕組み作りと研修はこう進める

《解説》

① 企業倫理の定着・コンプライアンスの仕組み作りとその研修の進め方

経営倫理実践研究センター 主任研究員 松本邦明

② SOX法の下におけるアメリカ企業のコンプライアンスへの取り組み

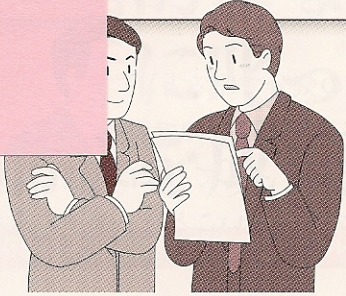
イマジナ 代表取締役 奥山由実子

《事例》東京電力/三菱自動車/テルモ

《特集関連資料》企業倫理への取り組みに関するアンケート調査

日本経済団体連合会

# 自己啓発・ 学習に励む



嶋津良智

リーダーズアカデミー  
代表取締役社長

## 部下が増えるほど 勉強の重要性は高まる

「忙しくて、とても手が回らない」と言って、まったく勉強をしない人がいます。たしかに、日々の仕事に追われていると、勉強はつつい後回しになりがちです。

しかし、私は勉強をしない人を見ると、「怖くないのかな」と思います。世の中は日々進んでいます。勉強をしない人は、時代の流れに置いていかれるという恐怖を感じないのでしょうか。

上司ともなれば、なおさらです。会社には毎年新しい人材が入ってきます。それも同じようなレベルの人材ばかりではありません。会社が大きくなればなるほど、より優秀な人材を採用しやすくなります。自分が入社した時と同じ気持ちでいたら、周り自分よりも優秀な部下ばかりという状況になりかねません。

もちろん、上司にとって部下が優秀なのは望ましいことです。しかし、そんな部下から信頼され、尊敬される上司であるためには、やはり、部下よりも優れたものを持っている必要があります。会社が大きくなればなるほど、そして部下が増えれば増えるほど、勉強の必要性や重要性は高まっていくのです。

とはいえ、こういう私も、少なくとも社員研修やセミナーについては、机上の空論を説いているに過ぎないと思ひ込み、軽んじていました。教育は現場にしかない、机に向かって学ぶことなどない、と思っていたのです。

ところが、たまたま、知人から勧められた研修を受講してみたところ、非常に勉強になりました。そ

れ以来、周囲の人が勧める研修やセミナーは1度は受けてみることにしています。

他のことでも同じですが、成果が上がると楽しくなるものです。知識が身につく、仕事のやり方や部下との接し方などが変化すると、学ぶことは楽しくなってきます。

## 勉強も仕事の一部 時間を決めて取り組もう

まずは勉強の時間をどのように作るかですが、余った時間に勉強しようと思っても、まずできません。ですから私は、勉強も仕事の一部と考えるようにしています。

例えば私は、人と会う時には、必ず約束の30分前に現地に着くようにしています。そうして約束の時間まで、近くの喫茶店で本を読むなどして勉強するのです。

また、通勤時間は本を読む時間に充てています。夜は、ニュース番組を録画しておいて、それを見てから寝ます。出張や旅行で見られない時には溜まっていますが、土曜日や日曜日にまとめて見ます。

このように、勉強も仕事の一部と考え、この時間にはこれをやるというように決めてしまうのです。人間というものは基本的には怠け者です。したがってそうでもしないと、なかなか勉強のための時間を作ることはできません。

次に、どのような勉強をするかですが、まずは本や雑誌を読むことをお勧めします。本は自分の知りたい知識や情報を深く掘り下げて知ることができますし、雑誌からは旬の情報を得ることができます。

ちなみに、私は本を読む時は、その内容を常に自



分の身の回りの事例に置き換えてみることにしています。例えば、成功事例が書かれていたら、それを応用して自社のこういう部署を、こういう形で改善できるはずだというように、自分に引き寄せて考えるのです。

そうして思い付いたことはメモに取っておき、そのほとんどを実行に移してきました。

例えば、IT関連の企業で営業を担当していた頃、ある本に、社員の誕生日に花を贈る会社があると書かれていました。それを読みながら、取引先の社長の誕生日に花を贈ったらどうだろうかなど、いろいろと考えているうちに、会社の設立記念日をデータベース化することを思い付きました。データベース化して、その日に花を贈るのです。

早速、実行に移したところ、取引先は、最初は戸惑ったようでしたが、2年、3年と続けるうちに喜んでくれるようになりました。もちろん、営業のアプローチは格段にやりやすくなりました。

## アウトプットを前提に インプットをする

メモは、実行に移すことを前提として取ります。本を読み終わったら、メモを読み返して、いつ実行に移すかを考えます。良い言葉をメモしていたら、次の朝礼で使おう、というようにです。

これは、他の勉強にも言えることですが、アウトプットを前提にインプットをすることが、非常に重要です。つまり、仕事のどのようなシーンで、どのように役立つかを考えて学ぶのです。

アウトプットを前提としないインプットは、必ず質が落ちます。使おうという前提がない知識や情報は、そもそも身につけません。

例えば、部下に対して「この研修は良さそうだから受けて来い」とだけ言ったとします。いくら素晴らしい研修だったとしても、恐らく1週間もすれば忘れてしまうことでしょう。ひょっとすると、研修会場を出た途端に忘れていたかも知れません。

しかし、「研修で学んだことを、他の社員にフィードバックするように。そのための時間を今度の月

曜日に2時間作るから」と言って受けさせたとしても。部下は、研修を受けながら、一生懸命にメモを取ることでしょ。研修が終わった後も、どのように皆の前で発表すればよいかを考えるはずで。

アウトプットするという前提があるのとないのではインプットの質がまったく違ってきます。

自分が勉強する場合も同様です。学んだことをどのようにアウトプットするかを明確にしておかないと身につけません。

本や雑誌を手にする際にも、基本的には、仕事にどのように役立つかを考えてから選ぶべきです。

ただし、特に雑誌などはアウトプットをあらかじめ明確にできないこともあると思います。そういう時には、先に説明したように、読みながら自分に引き寄せるのです。

いずれにしても、学んだことは役立つという意識を持つことが、最も効果的な学習方法だと言えると思います。

## 勉強の方法はいろいろある

本や雑誌を読むこと、研修・セミナーを受講することのほかに、人と会うのも勉強方法の1つです。自分の持っていないものを持っている人や、自分よりも優秀と思える人と話すことは、自分にとって良い刺激になります。

私の場合、本や雑誌で知って会いたいと思った人にはメールを出します。断られることもありますが、快く会ってくれる人は意外に多いのです。

今、シンガポールで新しいビジネスを立ち上げていますが、現地では、面会を申し込んで断られたことはありません。

知識や情報だけではなく、そんな出会いから新しいビジネスが誕生することもあります。駄目でもとくらの気持ちでアプローチしてみよう。

他の勉強方法としては、通信教育もお勧めです。私自身、過去にいろいろな通信教育を受けてきました。通信教育の良いところは、1つの分野や事柄に

ついて、体系的に学べる点です。

この場合、必ずしも、修了にこだわる必要はありません。もちろん、きちんと解答を提出して修了することができれば、それに越したことはありません。しかし、本当の目的は知識を身につけることです。したがって、解答を提出することよりも、テキストを読み込むことのほうに価値があるはずで

す。情報収集にはメールマガジンも役立ちます。言うまでもありませんが、インターネットには実にさまざまなサイトがあり、その多くがメールマガジンを発行しています。その中にはきっと、自分の興味のあるサイトや、仕事に関連するサイトが見つかるはずで

す。メールマガジンの良いところは、役立たないと思ったら、簡単に購読をやめられる点です。まずは試しに、いくつか申し込んでみてはいかがでしょうか。プリントアウトすれば、移動時間中に読むこともできます。

### 趣味的な自己啓発はほどほどに

上司ともなれば、自分のことだけを考えていればよいというものではありません。自分が受けて良いと思った研修・セミナーは部下にも受講させることをお勧めします。

私自身、自分が良いと思ったものはどんどん部下にも受けさせています。逆に部下から、こういうセミナーがあるので、と言ってきた時も同様です。

また、読んで良いと思った本は、部下の人数分を購入してプレゼントしています。雑誌の場合は、良い情報だと思った記事は、コピーして配っています。

もちろん、会社の教育費には上限があると思います。しかし、人材を育てることは上司の最大の使命です。部下ができるだけ教育を受けられるように、上役に進言することは上司の仕事でもあるのです。

ところで、自己啓発という仕事に直結するものばかりではなく、趣味的なものも含まれることもあります。気分転換になる分にはよいと思いますので、決して否定はしません。

ただあまりにのめり込んで、仕事がおろそかになるようならやめるべきです。もちろん、部下がのめり込んでいたら、上司は注意するべきです。

時間は有限です。しかし、その使い方は無限にあります。ポイントは、自分にとって今最も大切なことに最大限の時間を費やすことです。

喫茶店に行ってコーヒーを飲むのと同じような感覚で、趣味を楽しむのはよいと思いますが、大切なことに使うべき時間を削ってまで、というのはどうでしょうか。

私は以前、ゴルフをやっていました。しかし、今はやっていません。サーフィンも2~3年でやめました。理由は簡単で、自分にとって最も大切なものは仕事と家族だと思ったからです。この2つに最大限の時間を使おうと考えたら、平日は朝から晩まで仕事に時間を取られます。これは仕方がないことだと思います。

では、休日はどうでしょうか。ゴルフやサーフィンをやるのは家族ではなく、自分の趣味を優先していることとなります。ですから、それらを全部やめて、休日は家族のために使う時間にしようと思ったわけ

です。上司にとって、教養などの仕事に直結しない知識のための勉強も重要ですが、これは雑誌や本、新聞を読むことによって自然と身につきます。先に、アウトプットを前提としたインプットを考えるべきだと述べましたが、仕事に直結するものが最もアウトプットを出しやすいということは、言うまでもありません。そのことを考えて、日々の学びに取り組んでほしいと思います。

(しまづ よしのり)



#### ●プロフィール

1987年(株)フォーバルへ入社。93年(株)リンクを設立し代表取締役就任、94年(株)レカム(株)を設立し代表取締役就任、97年(株)リンクとレカム(株)ほか2社をM&A。04年(株)レカム(株)を大阪証券取引所ヘラクレス市場に上場。05年(株)リーダーズアカデミーを設立し、代表取締役就任。